

2022年度西日本支部総会を5月18日に開催し、全議案を承認しました

日本医学ジャーナリスト協会理事

西日本支部長 藤野博史

昨5月18日夜、2022年度の西日本支部総会が29人の出席でハイブリッド(対面・オンライン)開催され、21年度事業報告、同決算報告・監査報告、22年度の事業計画案、財政計画案の4議案が満場一致で承認されました。

対面会場の福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」(セミナールームBC室)には、支部長の藤野、波多江副支部長をはじめ6人が参加、オンラインでは松本忠監事ら4人が参加しました。

また、16人が議長一任の委任状を提出し、3人から表決権行使書が提出されました。

開会冒頭、波多江副支部長から「支部の会員数は40人。このうち、委任状が15人、表決権行使が3人、対面参加が6人、オンライン参加が4人で計28人の参加となり、総会成立定足数の3分の1に当たる14人を超えていますので、総会は成立しました」と報告してもらいました。最後に議長役の支部長が全議案一括で採決しましたところ、「満場一致(28人)で、出席者の過半数15人を超えていますので、承認されました」と結果を明言しました。

そのように、総会中にお伝えしましたが、開会中(議決前の19時19分)に委任状が1通メールで届いていましたので、これを加え、

委任状提出を15人から16人に、出席者数を28人から29人に訂正させていただきます。

よって、支部会員40人のうち、「回答あり」29人で、出席率は72・5%になりました。

ちなみに結果的に諸届けが届かず、「回答なし」は11人でした。

総会は波多江副支部長の「開会の辞」で始まり、冒頭、今年1月に急逝された故長野玲子会員に黙祷を捧げました。

2018年夏の「大分・熊本への施設見学1泊旅行」の際、熊本県小国町の北里柴三郎生家で撮影した在りし日の笑顔の写真で往時を偲びました。

その後、藤野が支部長挨拶で「コロナ禍での活動、特に支部でもハイブリッド例会(対面・オンライン)の試行、持続可能な支部づくり」などについて話しました。

議事録署名人に尾賀、松本博両常任幹事を選出し、支部長・藤野が議長となり、議事に入りました。

議案 1・2の 2021 年度 事業報告と 財務報告を支部長が行い、監査報告を松本忠監事からしていただきました。

議案 3・4の 22 年度 事業計画(案)、財務計画(案)を支部長が行い、一括審議で全て承認されました。

その後、オンライン参加の柴村馨会員から母・長野玲子様への黙祷などに対する感謝の言葉が述べられたのをはじめ、オンライン参加4人、対面参加の6人が「今年度の活動に期待すること」など一人ずつ発言しました。

長野様・柴村様ご夫妻3人はファミリーでの会員でした。

ちなみに、長野様は福岡市民病院で「病室を回って『花街の母』を歌う看護部長」として、患者さんの人気を集めていたそうです。この項、西日本支部のホームページに、波多江副支部長が追悼文を寄せられています。下段参照下さい。

参加会員のひと言では会員施設見学会などへの期待が寄せられました。

- ◎ロシアのウクライナ侵攻で「核の使用」が懸念されているなか、長崎原爆病院の見学。
- ◎ロンドン大学と連携して、今年度から全学でプラネタリーヘルスを展開する長崎大学訪問。
- ◎全国のハンセン病療養所で入所者が高齢化している中で、歴史の証人でもある入所者に会いに行く国立療養所菊池恵楓園(熊本県)訪問。同園入所者自治会長の志村康氏には 2018 年 10 月の新聞週間シンポジウムでパネリストを務めていただきました。
- ◎今年に入り、2例の内密出産が報告されている熊本市・慈恵病院の赤ちゃんポスト訪問。故蓮田太二前理事長は 2017 年 10 月の当支部の新聞週間シンポジウムで基調講演をしていただいています。現理事長健氏はご子息です。

これらに関心が表明されました。

議事録は後日、議事録署名人から報告されます。

皆様、今年度の支部活動にもどうぞ積極的にご参加いただきますよう、宜しくお願いします。